

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	山崎製パン株式会社
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	東京都千代田区岩本町3-10-1
工場等の名称	山崎製パン株式会社 名古屋工場
工場等の所在地	愛知県名古屋市西区玉池町36番地
業種	製造業
業務部門における 建築物の主たる用途	工場
建築物の所有形態	自社ビル等（自ら所有し自ら使用している建築物）
事業の概要	パン・和菓子・洋菓子等の製造・販売
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和6年7月23日 ～ 令和7年7月31日		
公表方法		掲示 閲覧	（場所）名古屋工場敷地内
		ホームページ	（HPアドレス）
		冊子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先			

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

当社は地球温暖化対策をはじめとする地球環境の重要性を認識し、事業活動のあらゆる分野を通じて、持続的発展が可能な社会の実現に貢献します。

1. 継続的な環境改善

中長期計画書に基づき継続的な改善を図ります。

2. 省エネルギー活動の推進

事業所で使用する電気・燃料等のエネルギー原単位を1年置きに1%削減します。

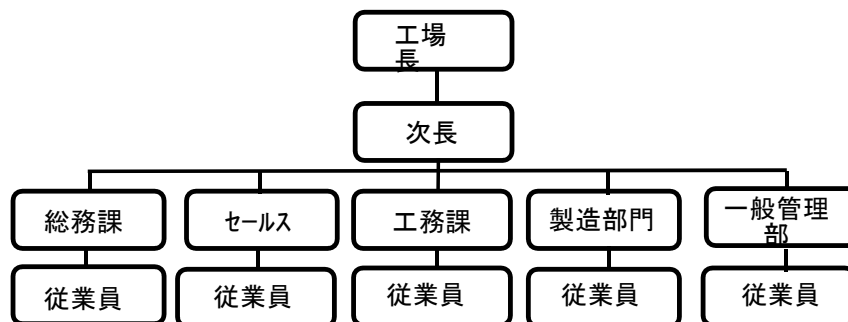
3. 環境に配慮した自動車の利用の推進

事業所で運行管理している自動車を、低公害者への変更を推進していきます。

4. 廃棄物の発生抑制、リサイクルの推進

廃棄物の発生量を抑制します。

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		24,745	t-CO ₂
（温室効果ガス除く炭素換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		24,745	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量及び原単位排出量
------------------	--------------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
温室効果ガス総排出量	25,831	t-CO ₂	25,572	t-CO ₂	25,584	t-CO ₂	24,745	t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対基準年度）			1.0	%	1.0	%	4.2	%		%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対基準年度）						%		%		%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
原単位あたりの排出量	668.8	t-CO ₂ / 10億円	662.1	t-CO ₂ / 10億円	640.1	t-CO ₂ / 10億円	594.1	t-CO ₂ / 10億円		t-CO ₂ / 10億円
削減率（対基準年度）			1.0	%	4.3	%	11.2	%		%
原単位あたりのみなし排出量						t-CO ₂ / 10億円		t-CO ₂ / 10億円		t-CO ₂ / 10億円
削減率（対基準年度）						%		%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

生産高が昨年度と比較して上昇しましたが、コージェネの運転を2023年4月から稼働開始したことにより電気使用量が減少した為、排出量が減少されています。
現在コージェネの効率を上げる為に、温水の利用範囲を広げるのを計画しています。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。
備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の実践 冷暖房	冷暖房の適正化	空調フィルターの掃除等 効率の良い運転の為の 点検・保守管理の実施	空調フィルターの交換・掃除 空調機室内機・室外機の薬品洗浄
省エネルギー・省資源の実践 照明	使用していない部屋や稼働時間外の消灯を徹底する。	省エネルギー巡回の施工。 人感センサーの設置。 LEDに仕様変更。	省エネルギー巡回 LEDに仕様変更
フロンガス等の 排出抑制	地球温暖化係数が低い物資へ変更。	旧冷媒仕様の空調機更新	空調機更新
自動車等 輸送機関に関する対策	配送コースの見直しによる走行距離の短縮を図り燃料使用量の削減	ハイブリッド車の増車	乗用車2台ハイブリッドに変更
廃棄物の排出抑制	分別廃棄物の徹底と再資源化を図る。		
省エネルギーによる巡回	水・電気・ガスの使用量の確認	一日の使用量産出	一日の使用量産出 不備箇所は修理等実施
省エネルギーによる自主点検	各所スチートラップの動作点検	年一回動作点検 不良箇所は随時交換	定期点検実施 不良箇所は一部交換済

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 2 年度目（令和 5 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況